

麻生のルーツを訪ねて

杉山神社の謎にどこまで迫れるか？



今から 1700 年ほど前、阿波忌部族は天富命を船長とし更なる沃土を目指し、一路房総半島を目指して渡って来ました。

多摩麻生観光ガイドの会

1. 杉山神社の謎

江戸時代の文化、文政の頃に完成したといわれる「新編武蔵風土記稿」によれば、鶴見川流域に 72 社の杉山神社があったという。

平安時代の承和 5 年（838）に靈験あらたかであるとして官幣社に預かり、更に承和 15 年（848）には従五位の下に任じられたという高い格式を持った神社であること、延喜式神明帳に記載された都筑郡の中で唯一の式内社であり、武蔵国府中大国魂神社を総社とする六所宮の一つ（六の宮）として選ばれた神社である事等もこの神社の特筆すべき歴史を秘めています。式内社はいわゆる社格であり、その社格はその神社の待遇で、祭神の待遇ではありません。

謎の一つ：

式内社とされているのは 72 社のうち何処なのか？ その本祀を巡って茅ヶ崎社（都筑区茅ヶ崎）、吉田社（港北区新吉田）、西八朔社（緑区西八朔）等が有力な候補にあがって来たが、文献や社伝、系図、地名、社領、古墳等わずかな手がかりの中から本祀を探究するなかで、郷土史家・戸倉英太郎氏はその著「杉山神社考」の中で、茅ヶ崎社に残っている社伝から四国阿波国の忌部一族（中臣氏と並んで朝廷の祭祀を司った古くからの名家）が房総半島の安房へ移り住み、その子孫が東京湾を渡って鶴見川流域へと進出した。同じ記録が房総の安房神社にもあることから、茅ヶ崎社が一番濃厚だと論じられています。

謎の二つ：

もう一つの論点は祭神です。P7～P9 に記載の通り、杉山神社の祭神がさまざまであるのは何故か？ 同じ忌部一族が移住して来たと

すれば、その祭神も同一であって当然と思われるがどうした事か。
元来忌部氏の祭神は高皇産靈神^{たかみむすびのかみ}で、その子の天太玉命^{あめのみとたまのみこと}（天孫降臨の際お供をした5神の内の1神）を祖と仰いで朝廷に仕え、諸国に広い領地を有していました。天太玉命の下で木綿作りに従ったのが阿波忌部の祖、天日鷲命^{あめのひわしのみこと}であり、その孫の由布津主命^{ゆふつぬしのみこと}は阿波国から房総の安房に來た族長で東国経営を行い、麻穀^{あし}を植えたとされている。そして天武天皇の白鳳3年（674）忌部勝麻呂が神託により朝廷に奏上して武蔵杉山之岡に神籬^{ひたうぎ}を立て、忌部三神を祀って弟義麻呂を奉仕させたのが杉山神社の始まりという。

現在祭神として祀られているのは、日本武尊と五十猛命が多く、戸倉英太郎氏は杉山神社が長い歴史の中で古き伝えを失い、祭神にも定まった説が無かったからではないかと推定されているがどうであろうか？

謎の三つ

鶴見川流域にしか無い杉山神社を誰が建てたのか？ 天武朝に忌部勝麻呂が建立して弟の義麻呂に奉仕させたとの事であるが、安房の忌部系神社と悉く祭神が異なるのはなぜなのか？

都筑郡に居住し古墳を築いた有力者は、忌部系の人達だったのか？ 古代のロマン溢れる物語です。

杉山の名の由来は、房総から武蔵都筑郡に本祀を祀って式内社となり、鶴見川流域に沿って次々と分霊勧請されて行った際に、鬱蒼とした神々しい場所を選んで（杉が生い茂っていた）社殿を祀ったと考えられています。

2. 川崎市内の杉山神社

旧都筑郡を中心として鶴見川流域に数多く点在した杉山神社は隣接する現在の川崎市にもかなりの数あった事が分かっています。

千年を越える年月の中で記録はほとんど失われ、創建当時の事は分からないが、江戸時代に書かれた「武蔵風土記稿」にかなりの数の杉山社の存在を知ることが出来ます。

- ① 金程村 杉山社、細山村 杉山社：細山新明社に合祀
- ② **五反田村 杉山社：西生田杉山神社に現存、五反田神社に分祀**
- ③ 久本村 杉山社：久本神社に合祀
- ④ **末長村 杉山社：末長杉山神社として現存**
- ⑤ 有馬村 杉山社：新明神社に合祀
- ⑥ 久末村 杉山社：天照皇大神宮に合祀
- ⑦ 井田村 杉山社：井田神社（天照皇大神宮）に合祀
- ⑧ 新城村 杉山社：新城神社に合祀
- ⑨ 諏訪河原村 杉山社：諏訪神社に合祀
- ⑩ 小杉村 杉山社：小杉神社に合祀
- ⑪ 上丸子村 杉山社：不詳（現存せず）
- ⑫ 小田村 杉山社：日枝大神社に合祀
- ⑬ **小倉村 杉山社：小倉杉山神社として現存**

現在、杉山社として残っているのは、西生田、末長、小倉の3社だけであり、激減してしまいました。その殆どが近隣の神社に合祀された例が多く、橘樹郡内には小規模の杉山社が多かった為存続出来なかったのではないかと思います。

1) 西生田の杉山神社

読売ランド駅に近い小高い丘の上にあります。

ご神体の宝剣には慶長 18 年 (1613) の銘があり、古棟札にも同じ年、領主・本田佐渡守再建の記載があり、創建の時期は不明であるが、少なくとも江戸時代よりかなり前からあったと思われます。祭神は日本武尊で諏訪社、新明社と共に五反田村の鎮守であり、観音寺の持ちであった。以前は不動の木造を本地仏としていたが、神仏分離のため明治初期に阿弥陀堂 (現大作自治会館) に移されたという。上菅生村から分離以前は長沢山王社が総鎮守であったが、祭礼を巡る争いから五反田村は杉山社を総鎮守とした事が風土記に記されています。社殿左手に末社鹿島社の小祀があり、貞享 2 年 (1685) と刻まれています。

2) 末長の杉山神社

末長の坂を登った丘の上、新作小学校の近くに 있습니다。

五十猛を祭神とし木の立像をご神体に古くからの末長の鎮守で明鏡寺の持ちであった。S39 年不慮の火災で焼失。S47 年に再建し、遷宮大祭を行った事が境内の碑に記されています。

そのため社殿は真新しく立派であり、社殿の左手には塚もあります。椎の木の巨木がひととき目を引きまします。

3) 小倉の杉山神社

日吉の丘と新鶴見操車場に挟まれた平地にあり、社殿・鳥居共にかなり古い。祭神は五十猛命と天照大神、本地仏は三尺剣の不動立像にして村の総鎮守であり、無量寺持でありました。境内にある由緒沿革解説板によれば、創建は古く大化の改新の頃に遡り、近年まで境内には樹齢千余年の古松 2 株があったという。当初は皇室直轄地として栄え、戦国時代には北条家家臣小机城主・笠原

氏の崇敬を受け、江戸時代には旗本・松下氏の領地として保護されて来た事が記されています。8月の大祭には湯立ての式という特別行事があり、また境内には小倉講中8人の建てた庚申塔があり、享保2年(1717)の年号が刻まれています。

4) 地名に残る「井田杉山町」

杉山社の名が地名として現在も残っている市内唯一の例が「井田杉山町」であります。明治の頃には杉山大神社と呼ばれてかなり広い神域を持っていたと言われ、社格も高かった。そうした事が地名に残る由縁になったと思われまます。明治の初めこの辺りは「上沼」「下沼」「杉山」という三つの字銘があったが耕地整理のためS15年に井田杉山町となりました。

3. ^{いんべ}忌部氏について

後に^{いんべ}齋部と表記を変える。天太玉命の子孫と称し、中臣氏と並んで大和朝廷の神祭を司り、中臣氏が祝詞を読むのに対して、奉幣を任とした。阿波・讃岐・紀伊・出雲・安房等に忌部と呼ぶ部民を有し、姓は天武10年(681)首から連、天武14年(685)に宿禰になった。藤原氏の隆盛によって次第に中臣氏に抑えられ、9c初めに同氏と地位職掌の争いを起し、大同2年(807)には齋部広成が自氏の伝承を記した「古語拾遺」を著わし、両氏対等なるべきを論じたが、結局衰退の一路をたどりました。

忌部氏の祖とされる天太玉命の孫で崇神天皇第2子とされる天富命が大船団を組んで房総半島に来たのは3c後半～4c前半とされており、安房の族長となる由布津主命(阿波忌部の祖とされる天

日鷲命の孫) が麻^{かじ}穀を栽培しながら拡大して行った。



開拓を終えた天富命は祖先のご加護によるものと祖父に当たる天太玉命をお祭りして、先祖の恵みに感謝したのである。

「安房忌部家系之図」によれば元正天皇の養老元年（717）に現在の場所へと天太玉命を奉斎し、同時に天富命も下の宮に祀ったという。これが現在の安房神社です。祭神の天太玉命は天照大御神の重臣として奉仕し、大御神が天岩戸に隠れた時、中臣氏の祖神：天児屋根命と共に大御神の出御の為に活躍した神です。

この部族は東国に拡大して行くが、天武朝の白鳳3年（674）忌部勝麻呂が鶴見川流域に入り杉山社を建て、弟の義麻呂に後を託したとされています。

杉山神社現況一覽表

(S 53.5.1 現在) 出典：戸倉英太郎著 杉山神社考

項	神社名	祭 神	所 在 地
1	杉山神社	五十猛命 倉稻魂命、面足尊	寺山町 177
2	杉山神社	五十猛尊	中山町 718
3	杉山神社	倭建命、倭比売命、弟橘比売命 (合祀)菅原道真、天照大神、宇迦之御靈 命、猿田彦命、大宮比売命	三保町 2079
4	杉山神社	日本武尊、天照皇大神	鴨居町 1287
5	杉山神社	五十猛尊 (合祀)日本武尊、応神天皇、大日饗貴神、 面足尊	青砥町 1119
6	杉山神社	五十猛命	市ヶ尾町 641
7	杉山神社	五十猛命、譽田別命	みたけ台 640
8	鉄 神社	伊弉諾尊、五十猛命	鉄町 1553
9	杉山神社	五十猛命	佐江戸町 2020
10	杉山神社	五十猛命、素盞雄命、大日靈女貴 命、豊受姫命、大己貴命、 保食命	たちばな台 78
11	杉山神社	五十猛命、大日饗貴命、 素盞雄命、太田命	西八朔町 208
12	杉山神社	日本武尊	恩田町 941
13	杉山神社	日本武尊、伊弉册命、事解男命、 速玉男命、稻田姫命、面足命	大熊町 497
14	杉山神社	五十猛神	池辺町 2718

横
浜
市
緑
区

項	神社名	祭神	所在地
15	杉山神社	日本武尊	樽町 268
16	杉山神社		太尾町 1054
17	杉山神社	日本武尊、大己貴命、大日靈貴命	勝田町 1231
18	杉山神社	五十猛命、(合祀)天照大神、 倉稻魂命、素盞雄命	茅ヶ崎町 2094
19	杉山神社	日本武尊、伊弉諾冊二尊、 橘姫命、応神天皇	中川町 1084 - 2
20	杉山神社	日本武尊 皇太神(太神宮を合祀)	新羽町 2576
21	杉山神社	大己貴命、日本武尊	新羽町 3918
22	杉山神社		根岸町 377
23	杉山神社	五十猛命、権五郎景政靈 北野聖廟、素盞鳴命	新吉田町 4509
24	杉山社	日本武尊	上星川町 469
25	杉山神社	日本武尊、五十猛命	川島町 896
26	杉山神社	日本武尊	星川 1 - 19 - 1
27	杉山社		西久保町 118
28	杉山神社	日本武尊	和田町 1 - 10 - 4
29	杉山社	五十猛命	仏向町 237
30	杉山社	五十猛命	菅田町 436
31	杉山神社	大物主命	片倉町 459
32	杉山社		菅田町 891
33	杉山大神	大物主命、天照皇大神、 日本武尊	六角橋 2 - 31

項	神社名	祭神	所在地	
34	杉山神社	日本武尊、大己貴命、大山咋神 天照大神、木花開耶姫命、菅原道真公、宇氣母智命、稻食魂命	南区	南太田町 2 - 187
35	杉山神社	市杵島姫命、天照皇大神 宇賀御靈命		宮元町 3 - 48
36	鶴見神社	素盞鳴命、五十猛命	鶴見区	鶴見町 299
37	杉山神社	日本武尊		岸谷 1 - 20 - 61
38	杉山神社	大己貴命	西区	中央 1 - 13 - 1
39	杉山大神	五十猛命、日本武尊	川崎市	幸区小倉 277
40	杉山神社	五十猛命		高津区末長 82
41	久本神社	五十猛命		高津区久本 468
42	杉山社			多摩区生田 2573
43	杉山神社	日本武尊、事代主命、大山咋命	町田市	つくし野 2 - 8
44	杉山神社	日本武尊、天照皇大神、熊野大神		成瀬 1341
45	杉山神社	日本武尊		金森 326
46	杉山神社	日本武尊		金森 1621
47	楯山神社	日本武尊、大物主命		三輪 1618
48	楯山神社	日本武尊、(合祀) 橘姫命	稲城	平尾 1189
49	杉山神社	大国主命、(合祀) 向津日売命、 豊佐賀男命、伊邪那美尊、速玉男命、 大山祇命	三浦郡	葉山町上山口 2639

日本武尊：「古事記」では倭建命、本名は小碓命。記紀伝承上の人物。

第12代景行天皇の皇子。母は皇后の播磨稻日大郎女。大碓尊は双子の兄。景行天皇に命じられて九州南部の熊襲を平定し、更に東国に派遣されて蝦夷を討ち、帰途病を得て伊勢に没した。その間に草薙剣の霊力や弟橘の入水、尊の死後その霊が白鳥と化するなどの話があり、特に「古事記」には多くの説話がおこまれる。大和政権による地方の平定を一人の勇者の物語として伝えたものと思われるが、「古事記」の説話が孤独な英雄として描き、人間性・文学性豊かなものであるのに対し、「日本書紀」は天皇の命を受けて征討の任に当たる国家の將軍として描いており、両者にはかなりの相違が認められる。

五十猛命：スサノオの子。「日本書紀」の一書にみえる神で、スサノオに従って新羅に天降り、のち大八洲国に木種を播殖し、紀伊の国の大神となった。妹の大屋津姫命、抓津姫命と共に播殖したとも記される。「先代旧事本紀」は別名大屋彦神と記し、「古事記」の木国大屋毘古神と同神とも考えられる。紀伊国造奉斎神の一つで、式内社に伊太祈曾神社がある。

忌部勝麻呂が最初に祀った杉山神社は、忌部系の神様（天太玉命とか天富命とか由布津主命など）を祀った筈であるが、どうしてこんなにことごとく違うのであろうか？

杉山神社考の著者：戸倉英太郎氏は飢饉や洪水などにより村全体が亡くなったか、または逃避せざるを得なくなり、時代が下って新しい人々が入植した時に祭神が変わったと推測されています。果たしてどうであらうか？ 謎ですネ！

安房忌部氏が鶴見川沿岸に到着してからの時の流れ

C	西暦	倭の事跡	南武蔵の事跡
	220	魏の建国	
	239	卑弥呼、魏より三角縁神獣鏡 100 枚頂く	由布津主命が安房に上陸し東国開拓事業を開始する(神武東征もこの頃だとする?)
	247	卑弥呼と狗奴国の戦いがおこる	
3	248	卑弥呼が死亡し、箸墓古墳(278m)へ?	
c		*この後、男王が起つが国が纏まらなく巫女の老与が邪馬台国の新しい女王となる	
	265	老与が西晋に使者を遣わす *この後、国内の統一が進み大和朝廷が成立する?	
	320 頃	10 崇神天皇逝去?	
	362	14 仲哀天皇逝去?	
	369	七支刀に朝鮮出兵が書かれている	
	380 頃	王朝が大和から河内へ移動?	
	391	広開土王(即位)碑に日本が百済、新羅を臣民化したと言う	
4	394	15 応神天皇逝去?	4c 中頃 稲荷前古墳
c	395	16 仁徳天皇即位?	
	399	倭が百済と和通し、新羅国境に進出する	4c 後半加瀬白山古墳
	400	倭が新羅に進出し、高句麗と戦って敗退する	三角縁神獣鏡出土
		4c 中頃には大和朝廷が出来ていた?	

C	西暦	倭の事跡	南武蔵の事跡
5 c	404	倭が帯方地域に進出し、高句麗と戦って敗退する	5c 前半 観音松古墳 (港北区)
	414	広開土王碑建立	
	421	倭讚①(17 履中?) 宋に朝貢し安東將軍・倭国王に任命	
	438	宗が珍②(18 反正?) を安東將軍・倭国王に任命	
	443	済③(19 允恭?) が宗より安東將軍・倭国王に任命される	5c 中頃 朝光寺原古墳
	451	済③(19 允恭) が安東大將軍に進号される	
	462	宗が倭国王世子興④(20 安康) を安東將軍・倭国王に任命	
	471	埼玉古墳群で稲荷山鉄剣出土(倭王武⑤:21 雄略天皇)	
478	武⑤:(21 雄略天皇) が使持節・都督倭新羅任那加羅秦韓慕 韓六国諸軍事・安東大將軍・倭王に任命される	埼玉古墳よりワカタケルの鉄剣出土	
6 c	507	26 継体(応神 5 世の孫) が大阪樟葉で即位 26 代(58 才)	
	512	継体天皇が加羅の 4 県を百済に譲渡する	
	527	筑紫の磐井が反乱を起こす(継体・欽明朝の内乱)	
	528	物部麁鹿火、磐井を惨殺	
	531	継体天皇逝去 82 才	
	534	武蔵の國造位を巡り争いが起る、国造笠原使主が屯倉献上	
	538	百済から仏教が伝わる	
	539	29 欽明天皇が即位する	
	552	百済の聖明王が仏教を伝え、崇仏・排仏の争いが起る	
	562	倭のバックアップを失った任那(加羅)は新羅に併合される	
	570	蘇我稲目逝去	
	571	欽明天皇逝去 63 才	
	587	蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす、崇峻天皇即位	
	592	蘇我馬子が崇峻を暗殺、推古女帝即位	
593	聖徳太子、摂政となる 大阪四天王寺を建立する	国造制の確立?	

C	西暦	倭の事跡	南武蔵の事跡
	601	聖徳太子が斑鳩宮を造る	
	603	聖徳太子が冠位 12 階を制定する	早野や麻生台団地周辺
	604	聖徳太子が 17 条憲法を作る	の横穴古墳が出現する
	607	小野妹子を遣隋使に任命する	7c~8c にかけて多く
	613	難波から大和に至る大道を造る	作られる。
	618	隋が滅亡する	
	622	聖徳太子が斑鳩宮で没する	
	626	蘇我馬子が没する	
	643	蘇我入鹿が山背大兄王を襲い、大兄自殺する	
	645	蘇我入鹿を大極殿で暗殺「大化の改新」	
	660	唐・新羅連合軍が百済を滅ぼす	
7	663	倭・百済軍が白村江で大敗を喫する	
c	668	中大兄が即位し天智天皇となる、唐が高句麗を滅ぼす	
	669	中臣鎌足に内大臣を授け、藤原を賜姓	白鳳 3 年(674)
	672	壬申の乱が起り、大海人が大友に勝利する、大友皇子没	安房より忌部義麻呂が
	673	大海人皇子が天武天皇として即位する	鶴見川流域に入り杉
	676	新羅により、朝鮮半島に統一国家が出来る	山社を創建する?
	686	天武天皇が没する、皇后が持統天皇となる	
	697	持統天皇が譲位し軽皇子が文武天皇となる	7c 後半には影向寺が現
			れる
		古墳時代の終末期	

C	西暦	倭の事跡	南武蔵の事跡
	701	大宝律令が完成する	
	712	古事記が完成する	
	720	日本書紀が完成する	
	724	元正天皇が譲位し、首皇子が聖武天皇となる	
	740	藤原広嗣の乱	
	741	安房の国を上総国に、能登国を越中国に併合	
	743	大仏建立の詔を発する	
8	752	大仏開眼の供養をする	
c	757	能登・安房国を再設置す、養老律令施行、橘奈良麻呂の乱	
	762	淡海三船が漢風諡号撰進する	
	765	道鏡を太政大臣禪師とする	
	771	東山道の武蔵国が東海道に属する	
	784	桓武天皇が長岡京に遷都する	
	794	坂上田村麻呂が蝦夷征討を開始する、平安京に遷都する	
	798	延喜式神名帳に登録された3132座の神社を官幣社と国幣社に再編する	
9	807	(大同 2) 平城天皇 齋部広成が「古語拾遺」を著わす	
c	838	(承和 5) 仁明天皇	都筑郡の杉山社が官幣社となる
	848	(承和 15) 仁明天皇	従五位下となる
10	927	(延長 5) 醍醐天皇 延喜式が完成	
c	967	(康保 4) 冷泉天皇 延喜式が施行	



阿波から安房に渡った開発団の隊長で麻穀栽培の
技術集団長でもある天日鷲命の孫の由布津主命

発行：多摩・麻生観光ガイドの会

事務局：川崎市観光協会連合会

〒212 - 0013

川崎市幸区堀川町 66 - 20

川崎市産業振興会館 8階

☎ 044 544-8229

FAX 044 543-5769

<http://k-kankou.jp>

1. 杉山神社に関する資料

『新撰總社伝記考』：大国魂神社の第 27 代宮司 猿渡盛章（江戸時代後期の人）が文政 10（1827）夏調査して著わす。動機は第六の宮 杉山神社の本祠探し、その試みは未詳に終わる「西八朔社が心に残った」と書く。

盛章の嗣子（猿渡容盛）も父の説を採っているが、同時代に編纂された『新編武蔵風土記稿』は茅ヶ崎社神主の杉山氏系図や古記録によって茅ヶ崎社こそが昔の式内社であろうと説は分かれる。

『杉山神社考』：戸倉英太郎氏が昭和 31 年に発表したもの。氏は杉山神社の殆ど全てを訪ね、その由緒を聞き、古文書に目を通し、先人の著書を読み、更には南房の安房神社にまで足を運んで神主系図を調べるとい研究だったが、出した結論は“本祠は茅ヶ崎社”というものだった。この書の出現が後学に及ぼした学恩は大きい、氏は杉山神社考の末尾を「私の杉山神社研究は未だ終局に達していない」と結んでいる。

『延喜式』：時平により完成、全 50 巻、醍醐天皇の時 延長 5 年（927）完成
神名帳は巻 9、10 の神名式の事 3,132 座の神名が中央、国郡別に登録されている。
大社 492 座（官幣 304 座、国幣 188 座） 内武蔵国では（大社 2 座）
小社 2640 座（官幣 433 座、国幣 2027 座） " （小社 42 座）

式内社の事 延暦 17（798）官幣と国幣に再編

2. 杉山神社に関する記述

『新編武蔵国風土記稿』の都築郡茅ヶ崎村の項には

1. 安房神社の神主 忌部勝麻呂が
2. 天武天皇の白鳳 3 年に
3. 神託によって武蔵国杉山の地に
4. 忌部三神（高御座樂日神、天日鷲命、由布津主命）を祀り
5. 杉山神社と号した と書かれている。

『古語拾遺』は平城天皇の下問に答えて、忌部氏の長老「忌部広成」が上申した書物である。内容は氏の衰微を踏まえて先祖以来の氏の業績を述べ、中臣氏の専横を訴えたもの。その中に忌部集団の安房渡来を書いた。要旨は次のようなものである。

1. 神武天皇期に
2. 天富命が
3. 安房の忌部を率い
4. 麻・穀栽培の適地を求めて東国へ行き、総の国に麻を植え、結城に穀を求めた
5. 阿波の忌部が住んだ所を安房郡と名付けた
6. そこに忌部氏の始祖天太玉命を祀る神社（安房神社）創立した

3. 忌部氏の略系図



杉山神社の成立について

松本良樹 作成

事績	天皇	世紀	時代	倭での出来事	都築での出来事	
		-3 C	弥生時代	-300		
		-2 C		-200		
		-1 C		-100		
		1 C	生	0	57 倭奴国王が後漢の光武帝から金印を受ける	大塚歳勝土遺跡 環濠集落
		2 C	後	100	107 倭国王の帥升が後漢の安帝に奴隷 160 人を送る この頃、朝鮮半島から鉄が盛んに輸入される	朝光寺原遺跡 土器
神武東征はこの頃か？	① 神武	3 C	期	200	239 卑弥呼が後漢より銅鏡 100 枚を貰う 248 卑弥呼が逝去 殉死者多し 265 台与が立つ この頃大和朝廷が成立か？ 邪馬台国 葛城王朝	由布津主が安房に上陸し東国開拓事業を開始する (神武東征もこの頃か？)
四道将軍	② 崇神	4 C	前期	300	謎の箸墓古墳 三輪王朝	虚空蔵山古墳 早瀬川上流首長墓 4 C 中頃 稲荷前古墳 築造
武内東国復原 景行の遷幸 日本武尊東征 新羅国造設置	③ 景行			380 頃 王朝が大和から河内へ移動？	4 C 後半加瀬白山古墳 築造 三角縁神獣鏡出土	
国界制度制定 関東 15 国造 設置	④ 成務					
関東 3 国造 増設	⑤ 応神	5 C	中	400	倭の 5 王の時代 河内王朝	5 C 前半 観音松古墳 (港北) 築造
下毛野国造 増設	⑥ 仁徳			421 倭の 5 王の最初の通交「讚」(仁徳か履中？) 478 「武」(雄略) 宋より六国諸軍事安東大將軍倭王	5 C 中頃 朝光寺原古墳 築造 甲冑、金銅製馬具	
	⑦ 雄略	6 C	後	500	527 筑紫の若 磐井の乱 534 武蔵国造の乱 538 百済より仏教が伝わる	横穴古墳群 馬の壁画 南武蔵に屯倉設置 大和朝廷の都築進出始まる
磐井の乱	⑧ 履体					大和政権の伸張 都築の衰退
武蔵国造の乱	⑨ 安閑			587 排仏(物部)、崇仏(曾我)の戦い		

事績	天皇	世紀	時代	倭での出来事	都築での出来事			
東8国の国司任命 (646)	② 孝徳	7C	飛鳥時代	601 斑鳩宮 建設 607 小野妹子 遣隋使 795 防人制の廃止 618 唐の統一	稲荷前古墳群の終末期			
百濟人を東国へ (666)	③ 斉明			630 遣唐使 始まる 645 大化の改新		都築の小王国衰退		
百濟人を武蔵国へ (684)	④ 天智			663 白村江で日本大敗 664 防人制の設置、百濟滅亡				
新羅人下毛野へ (687) 新羅人武蔵国へ (687) 高麗人を常陸国へ (689)	⑤ 天武			8C		奈良時代	672 壬申の乱 680 忌部氏 首から連となる 684 忌部氏 連から宿禰となる、八色の姓が制定	674 (白鳳3)忌部勝麻呂が杉山神社に忌部三神を祀って弟義麻呂を奉仕させる
砂鉄採掘 (704)	⑥ 神武						701 大宝律令	この頃 中央政府と地方の関係が明確となる
高麗人を武蔵国へ (716)	⑦ 元明						712 古事記 成立 720 日本書紀 成立、隼人の反乱 724 多賀城を置く	律令国家として走り続ける
武蔵深大寺創建 (733) 四分寺建立の開始 (741)	⑧ 元正	755 家持により防人歌を収集 757 防人制の廃止	都築部の防人服部於田、妻咎女の歌万葉集に収録					
新羅人を武蔵国へ(758)	⑨ 聖武	770 蝦夷反乱 771 (宝亀2) 武蔵国が東海道に改める						
	⑩ 孝謙	9C	平安時代		803 忌部→齋部へ文字を改める 807 (大同2) 齋部広成が『古語拾遺』を著す		838 (承和5) 杉山神社 官幣社に預かる 848 (承和15) 杉山神社 従五位の下に任じられる	
	⑪ 淳和			880頃 この頃大和より町田市三輪に 奇藤、矢沢、萩野の三氏来着	この頃から合祀始まる			
延喜式が完成する	⑫ 孝元			909 都築に勅使牧『立野』が置かれる 927 時平により延喜式が完成する				
		10C						